

- 語り合う
- 生命誌の広場
- 中村桂子の「ちょっと一言」
- ラボ日記
- 表現スタッフ日記
- さまざまな交流
- 生命誌のこれからを考える

生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」
- 研究について
- 季刊「生命誌」
- 展示・映像
- その他

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日 [この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日 [この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見



中村桂子の「ちょっと一言」

ナナフシのしたたかな戦略

投稿日：2018.05.31 ニックネーム：やっちゃん

今日の新聞に、「昆虫のナナフシ類の卵は、鳥に食べられても一部は消化されずに残り、鳥がふんを排泄することで、子孫が拡散されているらしい」という記事がありました。これはすごいです。転んでもただでは起きない虫のしたたかさを垣間見ました。

生命は生き延びるために、最大限の努力をするものなのですね。生命誌研究館にも、ナナフシの展示がありましたね。不思議な形の虫だなあ、と眺めながら、その多様性に驚きました。最大のナナフシなど、目の前に現れたらダッシュで逃げます。いつか、でも近いうちに、小学生の孫を連れて、遊びに行きたいです。

お返事

投稿日：2018.06.04 名前：中村桂子館長

お孫さんと御一緒に是非いらして下さい。ナナフシや肺魚も待っていますし、最近つくった細胞の展示は小さい方たちにも人気です。



中村桂子の「ちょっと一言」

ドキッと折々のことば

投稿日：2018.05.30 ニックネーム：やっちゃん

朝日新聞の一面、鷲田清一選「折々のことば」に、中村桂子先生のお名前を見つけ、ぐいっと引き込まれました。

「便利さ」を「豊かさ」と思い違えぬよう、やんわり釘を刺されてます。人間も生きものであることを忘れてはならない。時代への警鐘ですね。こんなことやっていいのかな？除草剤をかけても枯れない作物。虫が食べたら、その虫が死ぬ殺虫成分を組み込まれた作物。遺伝子組み換えで作られてしまう「便利な」作物は、姿を変えて目の前の食品に。踏みとどまって、考えて行動しなくちゃ、と思いました。

お返事

投稿日：2018.05.30 名前：中村桂子館長

ありがとうございます。本当にふしぎなことに便利・・・つまり速くできる、手が抜ける、思い通りにできるは、生きものには合わないのです。だから「適当に便利」がよいのではないかと考えています。ニュースを見ていたらアマゾン「もっともっと便利」をやるようとしているようで少し気になっています。



研究について

アインシュタインの言葉



新着情報



10月19日生命誌オープンラボ (19.10.01)

10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会(19.10.01)

昆虫脳の標本展示が登場！(19.10.01)

パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始(19.10.01)

あくあびあ芥川とスタンプラリー開催(19.10.01)

「いきものつながり」というのは、子どもたちが深く感受するのでしょうかね。
アインシュタインが『牢獄からの解放』という言葉を書いていること知りました。
「人間とは、わたしたちが宇宙と呼ぶ全体の一部であり、時間と空間に限定された一部である。わたしたちは、自分自身を、思考を、感情を他と切り離されたものとして体験する。意識についてのある種の錯覚である。
この感覚は一種の牢獄で、個人的な欲望や最も近くいる人々への愛情にわたしたちを縛り付けるのだ。
わたしたちの努めは、この牢獄から自ら解放することだ。
それには、共感の輪を、すべての生きものと自然全体の美しさに広げなければならない。
実質的に新しい思考を身につけなければ、人類は生き延びることはできないだろう」
この言葉の核心はどこだろうと思っています。また「新しい思考」ってどんなこと言っているのだろう。知っていきたい。できれば、関心のある人たちと。

お返事

投稿日：2018.06.04 名前：中村桂子館長

アインシュタインの言葉。お教えいただきありがとうございます。私は何でも生命誌に結びつける悪癖がありますが、人間が自然の一部であることを基本に考えるという気持ちに重なっていると感じます。アインシュタインが「ひとはなぜ戦争をするのか」という本で言っていることなど、天才科学者の思いに学ぶことはたくさんあるように思います。



中村桂子の「ちょっと一言」

争いの原因を探る

投稿日：2018.05.19 ニックネーム：ユリア

サイエンス研究所から、最近「次の社会一人知革命」を出版したい知らせです。一部、紹介します。

争いの原因

「人が人を動かそうとする」「やらせる、やらせない」「強制と束縛」人は、誰でも、じぶんの意志に反して行うことを好まない。動物の性質と同じ。争いになるのは、争いたくないが、相手が押し込んできたら、自分の立場がなくなるので、やむなく自分を主張し、護ろうとする。

国と国の争い、民族と民族、宗教の争い、目に映る世界は、じぶんの身を護るためほとんど動いているように見える。

身近では、夫婦、周囲の人の間柄、それも、言動に現れてこないことでも、内面世界では「人は何をするか分からない、危険な存在という、人を危険視する」認識、人間にたいする捉えかたが、なんの疑問も起こらず、当たり前化している。

このところ、そういう人と人の間がらについて、焦点をあててきてきたけど、日常のささいな心の動きにもはびこっていると思った。社会のなかに、自分のなかに。

「人が人を危険視するのは異常だ」

これは、本来の人と人之間、一人で生きているわけではなく、お互いの切っても切れないつながりにあることを知ったら、わけなく、争いの原因が解決するとおもった。

ただし、目の前の現れは、「やらせる、やらせない」「大事なことからやらなければならない」「しつけは必要ようだ」・・・など、相手を縛り、自分も内面で抑えるような、ふつうでない認識が人びとの間で根付いていて、それに気づくのは容易でない。

ここを解いていくのがサイエンスであり、サイエンスメソッドであり、一人ではなく、有志の人とともに観察し合うことが欠かせないだろうなあと思った。一つの視点として。

お返事

投稿日：2018.05.22 名前：中村桂子館長

小学校六年生の国語に「生きものはつながりの中に」という文を書いてきました。それへの子どもたちの反応から、つながりを知ることの大切さを感じています。



ふつうのおばーさん

投稿日：2018.05.19 ニックネーム：チロリン

蟻や蝶など小さい生き物を観察してらした画家熊谷守一の自伝映画「モリのいる場所」が上映されています、テレビの予告で銀色に輝く蟻の行進を観ると非情な私でも流石に踏みつける事はできません。

今春は熊や猪が里に出没して問題になりました、怪我をされたり農作物の被害にあわれた方には本当にお気の毒に思います。

ろくな食料もなく日本がもっと貧しかった戦中、戦後にはむしろ上手く共存していたのと思ひ、大小をとわず動物たちには行き難い時代になってしまった事と思っています。

「ふつうの女の子」出版楽しみです、普通のおばーさんですので。

お返事

投稿日：2018.05.22 名前：中村桂子館長

山崎務さんが熊谷守一になりきっていると評判ですね。小さな生きものに眼を向けると御自宅の庭だけで十分に自然と向き合えるということを実践なさったので、生命誌のお手本のような方です。「ふつうのおんなの子」。少しづつ進んでいます。



季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 名前：長谷川栄

生物の単体毎に生きる真摯さがあり、その哲学はまさに芸術の心理と紙一重である。微生物さえも浪漫をもって、相手に真剣に近づき恋を語り遺伝で何億年でも執拗に伝えていこうとする。またその行動は無駄がなく、EVやAIを遙か凌いで人生に参考となることばかりだ。孫の女の児は大学で生物学へ進んだが、それもよく判る！

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

お孫さんが生物学へ進まれたとのこと。研究館にいらして下さると嬉しいです。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・中井

私も、生きものの不思議さに魅了され生物学の道へと進んだも者の一人です。生命誌研究館では、人工では作ることのできないそれぞれの生きものが培ってきた歴史を感じることができます。ぜひお孫さんと一緒に研究館へいらしてください。お待ちしております。



季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：kei

故岡田先生には心からご冥福をお祈りいたします。桜の季節、同窓会（大学院）に風邪で御出席されなかった、その時がいつまでも無念です。先生からはいち早くルネ・トムのトポロジーと形態形成を知りました。小冊子では数理生物学関係も取り上げられるよう希望し、また益々の御発展を祈っています。小冊子は勉強と講義の材料としています。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

岡田先生がいらっしゃらないのは本当に残念で淋しいのですが、でもBRH

には「岡田節人フレーバー」がいっぱいです。是非いらして下さい。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・平川

岡田先生の思い出の映像を拝見すると実験から解釈をする楽しみを語っておられました。語り合いから生まれる科学を生命誌で継承していきたいと思えます。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：sensho（宣正）

本誌の「動詞」で括るイメージに共感して、子どもたちの科学活動（NPOあきた理科史料室）の参考にしています。江戸期に秋田のツツガムシ病など地域風土を科学的に記録した菅江真澄を、本号芳賀徹先生の「徳川日本の文明」の視点から、紹介する活動を行っています。本号・「ロスト・シティ」は興味深く読ませて頂きました。共生、「片利・相利共生」の捉え方も面白いですね。仏教で言えば、「自利・他利」でしょうが、二分されるものではないのでしょうか。毎号楽しみにしています。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

動詞で考えるということ始めてから長い時間が立ちましたが、最近、動詞で考えることが広まっているかなと思っています。とても日常的になるのだと想います。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・村田

それぞれの地域・風土から生まれた歴史や文化を語り継ぐご活動に、生命誌を生かしてくださりありがとうございます。江戸時代は250年ですが、生命誌が始まってまだ25年、今後とも応援よろしくをお願いします。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：ひろし

もう、10数年来、まだ私が動物園で働いていた頃に読んだリチャード・ドーキンスの「利己的な遺伝子」は動物の行動を理解する上で参考になった。そして、このBRHも地球の生物史46億を理解するのに役立った。私は恵まれていたと思う。現在、自然史博物館の仕事もしていて、基本的に大いに役立っています。DNAは動物の行動の基礎であり、生命史の基礎と思っています。長期にわたりありがとうございます。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

DNAをゲノムとして捉えるところから生命誌は始まりました。研究は進みましたが、さて生き物のことはとなるとわからないことが多く・・・これからもコツコツ続けます。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

38億年前に生まれた一つの生命のDNAを、今の地球上の全ての生きものが引き継いでいるのですから、大変なことですよ。私たちはDNAに加えそのはたらきを支える細胞にも着目しています。今後も幅広い情報をお届けしますので、お仕事にも、ご自身の生活のなかでもお役立ていただけると幸いです。

です。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：JIN

家族（といっても老夫婦の二人）で読んでおります。若い頃に仲間（micさん、ベクターさん）と中村館長には大変ご指導を頂きました。終生の宝物として参りたいと思っております。季刊「生命誌」のますますのご発展を祈念しております。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

生命誌研究館を始める模索の中で、本当にいろいろな方にお世話になりました。なつかしく思います。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・村田

生命誌研究館があるのは大阪府高槻市ですが、皆さんの声を聞かせていただくと、季刊「生命誌」を通じて遠くの方々の日常ともつながっていることが実感されて、読者の皆様に改めて感謝いたします。

季刊「生命誌」

季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：湯田

今月還暦を迎えます。
娘が結婚後3日目に肝臓障害で入院。
タイプが判らず、転院後に難病である免疫性肝炎と判明しました。
それで、坂口先生に辿り着いたわけです。

先日のNHKでも山中先生が仰ってましたが、是非研究を進めていただき難病に苦しむ患者やその家族をお救い頂けますよう、宜しくお願い致します。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

私は医師ではありませんので、直接お役に立つことができませんが、「生きることを大切に」という考え方で、研究も生活も応援する立場でいたいと思っています。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

ご自身で調べ、坂口先生の記事にたどり着いてくださったことを嬉しく思います。当館は医療の研究を行っておらず、直接お役に立つことは難しいかと思いますが、これからも生きものに関するさまざまな情報をお届けしたいと思います。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：ともしこ

カードだけをささっと読むだけですみません。でもとても楽しみにしています。もう100号・・・と言うことは25年！！おめでとうございます。私もカードだけですが、かれこれ20年近いおつき合いです。中村桂子さんの書くものに惹かれて生命誌研究館を訪ねてからずっと送ってもらっています。分子生物学がま

すすす進む中生命誌の視点が重要になってきますね。これからも応援しています。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

応援ありがとうございます。生命誌の視点の大切さをわかって下さる応援はとてありがたいのです。これからも広めたり、深めたり、あれこれ考えていきます。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・村田

創刊0号から32号は「冊子」の形で、33号（2002年）からは今の形です。振り返ると、季刊生命誌の歴史のほぼ7割が「カード」の時代ですね。長くおつき合いいただきありがとうございます。さてこの後、どんな形になっていくのか……。引き続きよろしくお祈いします。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：生命誌カード読者さん

紹介される研究がインパクトの大きなものがたくさんで、いつも楽しみにしております。今回号のロストシティのお話は「電気合成」のお話と関連づけて読むと、DNA/RNAのお話を別にするると代謝の起源はPMFを利用するF-ATPアーゼにあるようにも見えてしまいます。共生のお話興味深く読みました。共進化のお話興味深く読みました。共進化のお話今後特集していただけるとありがたいです。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

たくさんある研究の中で、生物学としての意味が大きく、日常のお話としても面白いお仕事を探すのはなかなか大変なのですが楽しい作業でもあります。御提案がありましたらまた書き込んでください。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・平川

ロストシティ深読みしていただけて嬉しいです。「生命誌の容器（うつわ）」昨年の樹に比べてちょっとコンパクトな分、考えるヒントを詰め込んでいます。面白い考えが浮かびましたら、またぜひ書き込んでください。自由な発想を語り合う場が生命誌です。

季刊「生命誌」

季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：j・H

「生命誌」をご送付下さりありがとうございます。皆様の思いや情熱が小さな「生命誌」にあふれていて開くのが楽しみです。手作りすることが好きな私は毎号の紙工作がお気に入り、今も何年か前に作ったモバイルがゆらゆら揺れています。今回は何かしらとわくわくしながら開き、本棚の上に飾っています。出来れば、お子さんやお孫さんとお話ししながら一緒に楽しめる企画も嬉しいです。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

紙工作ファンがかなり大勢いて下さって、やり甲斐があります。小さな人たちにつなげていくことの大切さを今とても強く感じています。よいアイディ

アがありましたら書き込んで下さい。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・村田

「共生」のモビールをつくったのは、年間テーマが「編む」の年でしたから2010年。それから8年間も「ゆらゆら」させていただき感謝、感激です。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 名前：K.E.

生命の神秘、仕組みは生き方にも通じるものと感じています。仕事とは直接関係ないですがとても楽しく読ませていただいています。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

この頃、社会が「生きている」ということを基本にして、「和」や「容」が生命誌だけでなく皆んなの言葉になって欲しいと願うようになりました。みなさんと関係がある・・・少し大きいですか。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

直接生物学や生命科学に携わっておられる方でなくとも、さまざまな分野の方に読んでいただくことが望みです。ご自身の観点で生命誌を受け止め、生き方を考えてくださっていることが大変嬉しいです。

季刊「生命誌」

季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：Eichan

いれる、ゆるす、をみて、
ちょうちょ、くるとき、はなひらく、をおもいました。
ちょうちょは、はながひらくときにたずね、はなはちょうをまねく。
いいなー、と。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

自然界はとても巧みにできていますね。でもその中でおかしなことも起きる。この矛盾がまた面白いと思っています。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

「いれる・ゆるす」を気に入っていただきありがとうございます。蝶と花の関係は何気ない日常の一コマですが、昆虫の大繁栄を支えたのは花との関わりだと言われています。豊かな生きもの世界の背景に、こんなつながりがあるのだと驚かされます。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 名前：図書館のK.FさんとW.Aさん

図書館の書架に組み立てたものを置いています。利用者の方も興味深そうに見て

いることがあります。いつも楽しみにしているので、これからも頑張ってください。(W.A)
コンセプトもデザインも面白く、精巧なので、特に付属の組み立てキットにはいつも感動しています。知らない世界を垣間見ることができます。これからも楽しみにしています。(K.F)

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

図書館に置いて下さるのはとても嬉しいです。そこから「生命誌」に関心を持ち本を読んで下さる方が出てきたらいいなあと、勝手に思いをふくらませています。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・平川

組み立てて飾っていただけて嬉しいです。制作中はたくさんの本や論文を読んであれもこれもと思いますが、デザイナーの坂啓典さんとの共同作業で限られた形に集約されていくところもスリリングです。またご感想をお聞かせください。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：HASUDA ANDO

生命に興味があるのでいつも楽しみにしています。膜がどのようにしてできたか非常に興味があります。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

生命体の起源についての研究が進んでいます。その中に膜もあります。それにしてもなんとふしぎなものが生れたものだと思いながら日々考えています。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・川名

閉じているけれど、開いている、生きものの膜は本当によくできていますよね。不思議です。季刊生命誌でも膜についての研究を過去に紹介しています。よかったら読んでみてください。

[62号「生きた膜を支える脂質の分子運動」梅田真郷](#)

[88号「分子が関わりあう人工細胞から生命を考える」栗原顕輔](#)

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：マッキー

1人くらしの時から楽しくワクワクしながら読んでます。形や場所は変化してきましたがこの気持ちは変わらずです。様々な方向から生きる不思議について考える。それが形となっている「生命誌」、これからも楽しみです。私がどこからどんなふうここにやってきたのか？ここで研究をつづけます。ドキドキワクワク美しさや知ることハツとなる心をありがとうございます。P.S. エンビツ君は



元気でしょうか？

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

ゴメンナサイ。エンピツ君は残念ながら今いません。代りに理研の竹市先生がマーブル君を下さいました。元気です！詳細は担当の平川が綴ると想います。マーブル君にも会いに来て下さい。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・平川

実はレピドシレン・パラドクサのエンピツくんとは2回のお別れがありました。一代目のエンピツくんは15歳のおじいさんで大往生でしたが、二代目のエンピツくんは、まだお年頃のお嬢さんで残念なことでした。いろいろ手をつくしましたが、弱っていくのを見守ることしかできず、最後になってしまった日、いつまでも水槽の手前に寄り添ってくれた姿が忘れられません。出会いと別れがあるのも生きものらしさですね。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：生命誌カード読者さん

40年余り、高校で生物を教えていました。授業の投込み教材として、最先端の内容を生徒に「topic」として話していました。定年退職後は自分の教養のため、大変役立っており、毎号楽しみにしております。特に「TALK」「SCIENTIST LIBRARY」が研究に打込む「人間」像が浮き出ている楽しい読物です。今後も楽しい記事をお願いします。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

授業にお使い下さったとのこと、ありがとうございます。後輩にもおすすめいただけるとありがたいのですが、よろしく願いいたします。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・川名

「TALK」「SCIENTIST LIBRARY」の編集ではお話しされている方のお人柄をきちんと届けたいと心がけていますので、「人間」像が浮き出ているとおっしゃっていただき嬉しいです。どの分野の方でも、人生をかけてお仕事されている方は、人柄もとっても魅力的でお会いするとからだの内側から元気が湧いてくるように感じます。これからもコツコツ発信していきますので、よろしく願いいたします。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：かわいいこぐまさん

前世紀の頃よりBRHを知っています。来館したこともあります。大学では生命のことを学んでいました。私は実力に乏しいため仕事では生命に関係していませんがこの分野の進展やBRHの活躍はいつも楽しみです。私は貢献できませんが、「学んでよかった！」を実感させてくれる。そんなBRHでありつづけてほしいと思っています。東日本に住んでいるため、なかなか来館できませんが、生きているうちに、もう一度BRHに行きたい！！

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

前世紀とは大げさな。でも確かに始まったのは前世紀でした。新しい世紀が暮らしやすい社会でありますようにと願ったのですが・・・でも気落ちせず続けます。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

生命科学に携わっておられる方でなくとも、生命誌をご自身の暮らしの中で受け止め、「学んでよかった」と思っていたいただいているのだとしたら、私たちにとって大成功。こんなに嬉しいことはありません。遠方でなかなか関西にいらっしゃる機会はないかもしれませんが、展示も新しいものが増えましたのでぜひご来館ください。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：生命誌カード読者さん

高校で理科教員をしていますが、授業中の関連した話題作りや、ペーパークラフトを視覚教材として利用させてもらっています。特にペーパークラフトは非常に有意義に使わせてもらっています。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

授業に使っていただけるとは、なんとありがたいことでしょう。日本中の学校で使ってもらえないかしらと、つい大きなことを考えてしまいました。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・平川

紙工作には、まだ教科書に載っていない新しい科学の話題を入れたいと毎回こっそり狙っています。正解は一つでない科学の挑戦をすこしでもお伝えできたら嬉しいです。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 名前：さとうみ振興会

海辺の自然学校等の活動を経て15年目を迎えるNPOです。こども達の健全な自然とのふれ合いのための場の提供等の調整をしながら沿岸域の課題を学ぶことになりました。次世代に引き継ぐため生命誌研究館の情報をいただきながら「何故かほっこり」した気持ちを頂くことが出来感謝しております。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

「ほっこり」 いい言葉ですね。私も最近、次の世代に引き継ぐことの大切さをひしひしと感じています。遅まきながら。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・村田

自然と生活のつながりを考える場づくり等、それぞれの地域・風土に根ざした皆さまのご活動と響き合うものがある。そのようなコメントにととても励まされます。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：まある

いつも「生命誌」をお送りいただきありがとうございます。シャレた工夫ある外装、毎回「そうだったのか！！」という内容。子供達も楽しめる紙工作のおまけ付き。毎回楽しみにさせていただいております。写真や図も多く分かりやすく工夫して下さっており、有り難いです。昨年孫を授かりました。息子にそっくりな女の子でした。自然の技？神の技？と改めて感嘆いたしました。貴誌のますますの御発展と皆様の御健康御多幸をお祈り申し上げます。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

お孫さん可愛いでしょね。いつか御一緒に「生命誌」を楽しんで下さる時が来ること楽しみにしています。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・中井

毎号楽しんでくださりありがとうございます。これからも短い文章と図でいかに「なるほど、そうだったのか！」を伝えられるのか一生懸命考えます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

季刊「生命誌」

季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：竹之内正志

シュリンクラップされた生命誌カードが郵便受けに届いていると疲れていてもわくわくします。毎号、練られた日本語を読むのが快いです。

96号の、共生・寄生、飯野先生のカルシウム・シグナル---分子・元素レベルの研究が、生命科学史上かつてない速さで命の仕組みを究めつつあることを感じます。

無数の生き物の、万華鏡のような有様を解明してゆくこれらの記事に接するたびに、私のような素人では納得する答えが出ないのはわかっている、それでは生命とは何なのか、と考え込んでしまいます。

原始の地球で有機物から単細胞生物が生じる、それが複製する---ある環境下での化合物の反応---は納得します。

でもそれが、バイオフィルムでの情報伝達から減数分裂した細胞が合体する生殖まで、なぜそこまでして自らを存続・永続しようとする存在に至っているのか、物理学・天文学・化学で説明できる出発点が、自分という存在に至っているのはなぜなのか、それを考え込んでしまいます。

これからも様々な方向から考え込ませてくれるよう、情報発信をお願いいたします。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

「生命とは何か」。生きものって本当にふしぎでおかしなものですよ。私の場合、これがわかってしまうと失業しますので、いつまでもわからないだろうな、考えることがたくさんあって楽しいなと思いながら暮らしています。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・川名

飯野先生のインタビューを担当した川名です。今、こうしてお返事を書いている私のからだの心臓でも脳の中でも、たくさんの細胞の中でカルシウム・シグナルが現れては消えているかと思うと不思議な気持ちになります。小さな分子のふるまいに、私の命が支えられている。研究で見えてくる世界像と、日常を重ねてこれからも表現していきたいと思います。どうぞよろしく願います。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 名前：Y.N.

毎回楽しみにしています。知らない世界、驚きの世界です。昔から研究や作品を知ると感動します。現在の活躍している方々とのインタビューも楽しいです。今、感心のあることは、野菜作りをしているので種子のことで。F0種子の考え方が気になります。いつか研究館へ行こうと思っています。今回の共生細菌とゾウムシの話は幼い孫にも話せる楽しいものでした。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

是非いらして下さい。研究館の中で「生命誌ってこういう感じなんだ」と感じ取っていただきたいと思っています。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・川名

ご感想ありがとうございます。私も「知らない世界」に出会い、驚くと今まで自分が見ていた景色が少し変わって見えたり、本当にわくわくします。インタビューの時は研究者の方の人生の物語の中に少しでもお邪魔させていただいたような気持ちになり、時空を超えた旅に出かけているようです。お話のエッセンスをこぼさず記事にできるようこれからも頑張ります。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：Waku Wakuさん

毎号、とても楽しみにしています。長いお付き合い（4年位）になるかと思いません。紙工作が書棚のアチコチに陣取って居すわってます。イベントや講演会に何度か足を運ばせてもらいました。生き物好きの私にとって、大変居心地のいいところ（しかもこんなに近くにあって）。中村先生の生命への向き合い方や信念にいつも感動しています。“寛容”好きな言葉ですがこの姿勢を保つことはなかなか難しく、永遠の課題となりそうです。次号も楽しみです！！ワクワク

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

“寛容”は私は大好きな言葉です。眺めていると心が広がる気持ちで、よくこの文字を見えています。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・中井

研究館にも足を運んでくださってありがとうございます。研究館で展示を眺め、生きものの生き方に触れることで寛容な気持ちになれるかも・・・またゆっくりと展示を眺めにいらして下さい！

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：空西風

人生を考えるとときに大事な視点を与えて貰っています。宇宙の銀河活動によって生まれた地球。その表層はちょうどいい加減のお風呂のようにエネルギーがほどよく出入りする環境になってくれました。そのバランスを効率的にはかる上で地球表層の自然は、生態系の中に生命活動をとり入れて物理法則や化学法則を活用して多様な生物を登場させてくれています。こうした自分なりの視点を育ててくれたのが「生命誌」だと思っています。人間はもちろん素晴らしい存在ではありますが、人間中心の視点では真実はつかめません。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

生命誌を日常の生き方に生かして下さっているのは嬉しいことです。科学・日常・思想をつなぎたいと思いながら活動をしていますので、これからも応援して下さい。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊

そのような形でお役に立てたことは光栄です。地球と生きものの長い歴史を振り返ると、地球の環境はほんのいつか私たちにちょうど良い加減になってくれているのですね。私たち人間は小さな生きものの一つでありながら、宇宙を含めて世界を広く深く見詰め、ときに「そうなのか!」と驚くことができるという個性があります。これからもお付き合いください。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：塩せんべい

中二です。母から教えてもらい、興味があるので読んでいます。ペーパークラフト（工作）がすごく楽しみです。今回は「のり」を使わなかったのが良かったです。以前のような、動く動物が私は好きです。（その後も遊べるので・・・）

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

ペーパークラフトを楽しみにして下さってありがとうございます。ユニークなものを考え出すのはなかなか大変なんですよ。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・平川

紙工作を考えるときはいつも、作ってくださる皆さんの顔を思い浮かべて、作りながら想像を膨らませ、出来上がりを飾って、時々手にとって楽しんでいただけたらと思っています。これからも頑張りますのでご期待ください。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 名前：J.Y.

仕事（医療）の終了後、コーヒーを飲みながらゆっくりくつろぎながら読ませて頂いております。つくづく生命の連鎖、悠久の時間の中で「進化」してきた「いのち」の不可思議さに感動いたします。地球外の遠い宇宙から原初のDNAがもたらせられたとしたら、なお更です。いつも楽しく読めて、且つ深い内容をわかりやすく解説頂きまして、本当に感謝申し上げます。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

医療のお仕事の方がゆったりとお読み下さっているのはとても嬉しいことです。いのちについて少し違うところから見下さることがお仕事にも生かしていただけるかしらとも思いました。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・川名

「深い内容をわかりやすく解説」とおっしゃっていただきとても嬉しいです。生きもの研究の現場で今どんなことが見えてきているのかを伝え、さまざまな視点から一緒に「生きる」を考えたいと日々、奮闘しています。またぜひお声お聞かせください。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 ニックネーム：クーピーシン

自然科学に興味を持つので、特に生命研究の原点に近いテーマが良い。館長の

心暖まる話しや対話がすばらしく、またスタッフの方々のベクトル合せが良いので、細心に亘る内容が伝わってきます。宇宙や地球自然史（生物にとらわれず）のテーマの記事を増やして欲しい。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：中村桂子館長

ていねいにお読み下さっている様子がわかります。ありがとうございます。

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・村田

核は「生きもの研究」ですが、それがさまざまな分野の知見や活動と呼応するのが生命誌の自然なあり方です。取材する対象も、表現する方法も、さらに工夫を重ねたいと思います。今度ともどうぞよろしくお願いします。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.05.18 名前：Y.K.

研究者が感じるテーマに対するロマンや驚き、最新の生命に関する考え方や情報などを大変うまくコンパクトにまとめ上げて、季刊「生命誌」は作成されています。高等学校の同僚と生命誌研究館に訪れたことがきっかけで後日、家族4人で再度訪問をさせてもらいました。ところでこの度、学校を退職することになりました。できましたら季刊「生命誌」を自宅にお送りいただけないでしょうか？

お返事

投稿日：2018.05.18 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

素敵なお感想ありがとうございます。編集の際は常に、今伝えたいことは何かと問いながらつくっています。決まった形も正解もありませんが、私たちの工夫や思いを感じ取ってくださり大変嬉しく思います。生命誌の発送先、次号より変更させていただきます。お時間のある折に、またゆっくりと展示を見にいらしてください。

お返事

投稿日：2018.09.28 名前：中村桂子館長

ありがとうございます。私たちの思いが伝わったと実感し、励みになります。先生方が生徒さんたちに生きる楽しさを伝えて下さるお手伝いができればと思っております。

研究について

キジの好きな場所

投稿日：2018.05.14 ニックネーム：ピッピ

中村館長さま

コメントをいただき、嬉しく思います。

私は群馬県に住んでいます。市長はハコモノが好きなようで、建物が増えました。道路の工事も盛んです。住まいは駅に近い場所ですが、昔は養蚕農家をしてきた方が多かった土地のせいか、桑畑が普通の畑になる場合が多いようです。同じ苗字が集中していますし、城跡もありますから一族だったのかもしれませんが。近所に広い草原があります。そんな草原にキジが住んでいます。キジは用心深くコンクリートの道を渡り、昔ながらの農家の畑にオス1羽、メス2羽がやってきては朝ごはんを食べています。オスは活発で朝の5時前からケンケン鳴いてくれます。良いモーニングコールです！

キジの鳴き声にはパターンがあります。いつか、超音波などを計って地震とキジの鳴き方の関係を調べてみたいと夢見ています。

お返事

投稿日：2018.05.15 名前：中村桂子館長

キジについて詳しい御報告ありがとうございます。広い草原を思い浮かべながら拝読しました。以前、庭の池に息子が釣ってきたフナを入れていましたら、それがあの日ものすごく高く跳び上って外へ出てしまったことがありました。直後に地震。動物は敏感です（外へ出てはダメですけど）。



研究について

オオカマキリが誕生しました

投稿日：2018.05.08 ニックネーム：ピッピー

生命誌のみなさま こんにちは。

4月に入ると、庭ではオオカマキリの卵しょうから赤ちゃんが次々と生まれています。アリやクモが待ち伏せする中、懸命に脱皮する姿は感動的です。1つの卵しょうから2回、孵化することがありました。

大阪にカマキリさんはいますか。読者の皆さんはいかがでしょうか。カマをそろえて歩く姿はかわいらしいですね。嫌われがちな昆虫ですが、私は大好きです。生命誌の中で取り上げてもらえたら嬉しいです。

アゲハの幼虫がすくすく育ったり、キジが鳴く季節を楽しみたいと思います。大阪には、夏休みに行けたらと思います。

お返事

投稿日：2018.05.14 名前：中村桂子館長

この時期になると庭はムシたちで賑わいますね。今年はカマキリに会っていませんが、小ちゃいのに一人前の形をしているところがちょっと生意気で可愛いですね。キジが鳴く・・・どこにお住まいなのかしらと想像しています。



中村桂子の「ちょっと一言」

当たり前の幸せ

投稿日：2018.05.02 ニックネーム：チロリン

小さなアリさんにもご馳走を振る舞われてさすがです、私なら潰してしまいますのに。小さな生き物の事も楽しみにしています。

「空中庭園」の事をお聞きしてひと月も経たない時に南北両首脳が軍事境界線を越えてビックリです、間もなくアメリカとも会談が行われるのでしょうか。安倍さんも米、韓両国にお願いしている様ですが結果は出るのでしょうか。

核、ミサイルも勿論ですが一番の気掛かりは拉致の事です、13歳で拉致されたMさんの母上と同じ年（82）という事もあるかも知れません。家族と一緒に暮らせる当たり前の事が今からでも叶いますようにと願っております。

お返事

投稿日：2018.05.02 名前：中村桂子館長

いつも書き込みありがとうございます。励みになります。

北朝鮮の金正恩さん（最近人が変わったようによい笑顔をなさるので、ついさんと書いてしまいました）の変化の背後にはさまざまな事情があるのですが、とにかく平和の方向に動き、一つの民族の間の異常な境界が消えていくのは素晴らしいことです。空中庭園の実現までにはまださまざまな課題がありますが、少なくとも先が見えてきたことは嬉しいです。

▲ ページの先頭へ